

電磁波温熱療法の臨床試験から得られたエビデンス

産業医科大学病院 放射線治療科 大栗隆行

電磁波温熱療法に関するメタアナリシス，またはPhase III studyに基づくLevel I エビデンスとして，放射線治療に電磁波温熱療法を加えることで頭頸部癌，乳癌，悪性黒色腫，非小細胞肺癌，食道癌，直腸癌，子宮頸癌，膀胱癌と多くの疾患群において局所制御率や腫瘍完全消失率の有意な改善が確認されている．さらに，子宮頸癌や直腸癌では全生存率においてもメタアナリシスで有意な改善が確認されている．化学療法に電磁波温熱療法を加える有効性は，高悪性度軟部肉腫では全生存率や無病生存率において有意な改善がLevel I エビデンスとして認められる．化学放射線療法では，食道癌において電磁波温熱療法による全生存率の有意な改善がPhase III studyで確認されている．また，有望な温熱化学療法のPhase II studyの認められる疾患として，非小細胞肺癌，膵癌，卵巣癌，癌性腹膜炎が挙げられた．本発表では，上述の電磁波温熱療法の臨床試験の概要や，現在進行中の臨床試験に関し概説する。